

(株)ケーブルメディアワイワイ

熱戦の模様をデータ放送でも提供



宮崎県延岡市、日向市など2市6町をサービスエリアとする(株)ケーブルメディアワイワイ(本社:宮崎・延岡市、松居龍社長、以下ワイワイ)。そのワイワイは、新たなデータ放送の活用として、高校野球県予選の情報を提供している。

米良徹平氏 クリエイティブ事業局主任

スマートな情報システムを

ワイワイは平成22年度総務省の「地域ICT利活用広域連携事業」に採択され、主に高齢者向けの「買い物支援サービス」や「見守りサービス」を展開している。また、地域生活支援サービスとしてデータ放送に着手。行政情報や防災情報など地域生活に役立つ情報を提供している。

ワイワイはこれらのサービスのインターフェイスとして(株)メディアキャストのデータ放送システム「DataCaster M3」を採用した。

「DataCaster M3」の採用理由として「情報化社会の中、インターネットには情報があふれている。データ放送は地域に必要な情報だけを掲載できることが強み。「DataCaster M3」は既存のコンテンツにとらわれず、地域に必要なコンテンツを独自に開発できる柔軟性を重視した」と米良氏は説明する。

提供情報は、暮らし情報として天気予報や交通情報(JR時刻表・空港情報・バス時刻表など)、放送エリアの自治体別に行政情報、防災情報、イベント情報等を提供している。これらの情報に加えて、セットトップボックス契約者だけが閲覧できる、地域新聞ニュース、お悔み情報、観光案内なども提供している。「データ放送を利用してもらうには更新頻度を上げる必要があり、そのためには運用者の負担を軽減することが大切。自社入力、外部入力、外部連携機能で、誰もが負担なく運用できるシステムになっています」と米良氏は説明する。

生きている情報をデータ放送で

ワイワイは、宮崎ケーブルテレビ(宮崎市、以下MCN)、BTVケーブルテレビ(都城市)の宮崎県内のケーブルテレビ局3社と地元民放局のMRT宮崎放送との共同で、夏の高校野球県予選の生中継を毎年行なっている。

生中継は、宮崎市にあるサンマリンスタジアム宮崎で行われる準々決勝までの全試合で、映像は宮崎県内の情報ハイウェイ(光ケーブル)を通じて各局へと送られる。

ワイワイは、この熱戦を映像に加えデータ放送でも提供。現地からの映像をワイワイ局舎(延岡市)で視聴し、試合に動きがあるごとにデータを更新。提供されているデータは、中継中の試合のスコアボードはもちろん、対戦力一ド、トーナメント表、チーム紹介と、これを見ればすべてがわかるほどの詳しさだ。また、中継がないもう一つの会場(宮崎市:アイビースタジアム)の情報も、現地スタッフから送られたデータを見ながらワイワイ局舎スタッフが入力している。

これらのデータは同じく「DataCaster M3」を利用しているMCNのデータ放送とも共同利用され、MCNのデータ放送にも提供されている。「高校野球中継はキラーコンテンツ。ワイワイにも対戦結果や放送日程の問合せなど反響も大きい。その中で対戦結果などいつでも確認できるデータ放送の付加価値を加えることでお客様からも大変好評。またMCNとの共同運用で業務負担軽減などメリットも大きい」(米良氏)のこと。同じ「DataCaster M3」を採用し



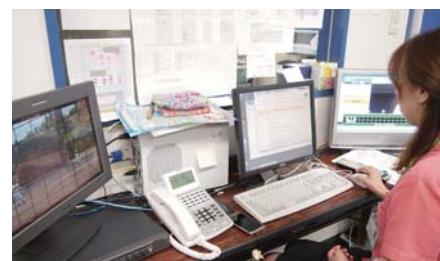
データ放送トップ画面



スコアボードを表示



トーナメント表を表示



高校野球のスコアデータは局舎内で入力

た局間連携の成功事例と言えよう。

「自治体や加入者からの要望に応えてきました。今後もニーズに応えた新サービス、“生きている情報”を提供し続けます」と米良氏は語る。そして、データ放送が“地域の生きている情報”の中核を担う存在になっていくと米良氏は説明する。